平成 30 年 9 月 14 日 発行　第 15 号

郷　土　の　か　ぜ

仙 台 市 民 図 書 館　郷土資料コーナーから

三 階 松
秋 保 家

『 郷土資料をご利用ください 』

市民図書館長　武者元子

仙台市民図書館に所蔵している郷土資料はおよそ４万８千点。旧仙台藩領など仙台にゆかりのある地域の歴史や地理、産業、文化、人物などさまざまな資料を提供しています。一般にはなかなか手に入らない書籍や歴史的価値のある古書などもあり、市民図書館４階の郷土資料・参考図書フロアでは、多くの人がこれらの貴重な資料を活用して調べものを行っています。同３階には郷土資料の中でも貸し出しできる図書が配置されており、市史や町史、地元学のほか、仙台のお出かけスポットやおいしい飲食店を案内する本、仙台を題材にした文芸作品、スポーツの分類にはフィギュアスケートの羽生結弦選手に関する本もあり、多彩な資料が並んでいます。

東日本大震災被災地の図書館として収集と展示を行っている「３．１１震災文庫」も、広い意味で郷土資料に含まれます。被災体験に基づく知見や教訓、失われたふるさとの記憶。１万１千点を超えるこれらは今を生きる私たちにとって貴重な道しるべでもありますし、次世代に向けて役に立つ資料となるよう、引き継いでいかなければなりません。

これから、さらに進めるべきはこうした資料の利用促進です。図書館では調べものをお手伝いするレファレンスサービスで郷土資料をフル活用していますが、そのほかにも資料の魅力を分かりやすくお伝えする取り組みを実施しており、たとえば６月の「市民ミーティング　郷土を語る」では、実際に郷土資料を使って研究中の方々による成果発表、７月のイベント「とぷらすウィーク」では市政だよりの連載「３．１１震災文庫を読む」で紹介した本の展示や関連トークを行いました。今後もいろいろな角度から発信を続けていきたいと思います。

■　資料紹介

『 国宝　信貴山縁起絵巻　調査研究報告書　- 光学調査編 - 』

独立行政法人国立文化財機構　奈良国立博物館　R721/シ

大変興味深い報告書が出版されました。信貴山縁起（しぎさんえんぎ）は、平安時代末の絵巻物で2016 年国宝に指定された。『源氏物語絵巻』、『鳥獣人物戯画』、『伴大納言絵詞』と並ぶ四大絵巻物の一つです。朝護孫子寺（ちょうごそんしじ　奈良県生駒郡平群町　信貴山真言宗総本山）の書蔵（原本は奈良国立博物館に寄託）となっています。大きさ 520 ㎜×370 ㎜の大型版で大変重い資料ですが当時の有様がつぶさに読み取れます。内容構成は、**山崎長者巻**、**延喜加持巻**、さらに**尼公巻**となっており、部分図があるおかげで登場する人物の表情が大変よくわかり、言葉は悪いのですが「漫画チック」に描かれていますので飽きが来ません。紹介されている絵の中で強く興味をひかれた描写法がありました。報告書の中にも記載がありますが「**すやり霞**」という大和絵特有の表現方法で、画面の随所に“霞”を入れることによって、画面が煩雑になるのを避ける効果などもあるそうです。興味ある方、必見の資料でしょう。　（光学調査とは：高精細カラー画像など）　（小石川 記）

「少し内緒にしたいこと」

若林区　大谷　美紀

ひとによって、図書館の利用の仕方はそれぞれでしょう。
月に何度か図書館を利用しますが、そのほとんどを郷土資料コーナーで過ごしています。ライターという仕事柄、東北の文化や暮らしに関する記事を書く際には、できるだけ県史や民俗学、民藝といった関連する資料に目を通しておきたいという思いからです。

たしか、民具の「箕（み)」について調べているとき。作家の熊谷達也さんが、仙台市民図書館の郷土資料コーナーにあるデータベースで調べたと書かれていたのを目にしました。新聞社や大学などで利用されているオンラインデータベースが、いつも過ごしているコーナーの一角にあったとは気がつきませんでした。さっそく利用の仕方を教えていただくと、ひとり１回 30 分、無料とのこと。うれしい配慮でした。

データベースの席は、スタッフ席のすぐ隣に一つ。パソコンが置かれているだけの静かな光景です。それでも席について検索をはじめれば、茫洋とした情報の海が広がってきます。
河北新報、朝日新聞、日本経済新聞など各社の記事に目を通して、生きた情報を知ることができ、時代の流れも感じることができます。そして、なにより自分の思い込みやひとりよがりの考えから解き放ってくれる、心強い味方でもあるのです。

担当者の方には、何かあれば振り向いてうかがい、時には関連する書籍の相談をし、仙台に暮らす一人の市民として記憶に残っていることを教えていただくこともあります。
データベースの席はあまり混むことがないのもありがたく、たいてい待つこともなく席に着ける安心感があります。

だから、ちょっと内緒にしておきたいのです。その席のことは。
ですが、折々お世話になっているスタッフのＫさんから「データベースを使っての楽しみ書いてね」とのご依頼です。
楽しみというより、支えられている感覚に近い気もしますが、わたしにとって親しみのある席です。

■　編集後記

調べもので悪戦苦闘しているスタッフがいます。宮城県北の篤志家から寄贈していただいた資料の中に入っていた「 **相阿彌流生花百瓶圖**（そうあみりゅういけばなひゃっぺいず)」で、最終ページに江戸時代の「天保…」という記載で年代が判明しました。、相阿彌流を調査してみると、華道の流れは大変古く創流は康正二年（1456)、相阿彌真相を流祖としています。その資料を見ていくと、収められている図は見事というほかありません。さらに花器についても詳細に描かれており「なるほど！」と唸ってしまいます。それくらい見事なのです。
さて、この資料を書いた人の名前は判明したのですが、詳しく確認できる資料はまだ見つかっていません。さらに、オリジナルはどこで所蔵しているかも不明なのです。京都のある施設にもあることがわかりましたが、当館で所蔵しているものとは違うようです。各所に印鑑が押されてあり、それを解読しようとしていますがこちらも難解です。国会図書館にもあり、その資料を調べてみたいと当該スタッフが言っておりますが・・

発　行：仙台市民図書館　郷土資料コーナー　（担当：小石川）
〒980-0821　仙台市青葉区春日町 2-1　せんだいメディアテーク内　℡022-261-1585